

日ウの架け橋10周年

— 移住基金からのメッセージ —

こんにちは。

救援・中部の設立 10 周年をお祝いするという、名誉ある役目を遂行することは、大きな喜びであります。

この 10 年間は、私たち双方の国の関係にとって歴史的な出来事となりました。これは単なる援助ではなく、真心と真の友情であります。私たちの協力関係は、私たちと双方の国を、お互いにより良く理解する助けになりました。

勿論、過去 10 年の主な成果は、チェルノブイリの惨事で被害を受けた人々に向け、あなた方を通じた日本人の持続的で具体的な援助であります。この機会に、これら被災者、そして事故処理作業員協会、チェルノブイリ障害者協会、ジトーミル市立小児病院、ジトーミル州立小児病院、ナロジチ病院、ブルシーロフ病院、ゼレムリヤ診療所、州立孤児院のスタッフたち、そして、あなた方がこの 10 年に援助したすべての人々から、皆様に心からの感謝の言葉を贈りたいと思います。

あなた方の持続的な援助で、病気の事故処理作業員や子ども達の命を救うことができたことに感謝します。移住基金が活動を継続できたことに感謝します。

あなた方のご親切と友情に、幸あらんことを！

私たちの温かい関係が、これからの 10 年も続くことを！

V. キリチャンスキー移住基金代表

E. ドンチェヴァ代表代理

(2000 年 5 月 25 日)

〒466-0822 名古屋市昭和区楽園町 137 1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表：田中良明

郵便振替：00880-7-108610

TEL/FAX：052-836-1073 (月・水・金 10:30~15:30)

E-メール：chachubu@muc.biglobe.ne.jp

チェルノブイリの汚染地管理のための



「4WD車をウクライナへ贈ろう！」

キャンペーン

先の、ポレーシェNo.54でお伝えしましたように、ジトーミル消防局では4WD車を求めています。放射能汚染により立ち入り禁止の30キロゾーン内や汚染濃度の高い区域で、しばしば森林火災が発生します。それにより、土や樹木が吸い上げた放射能がまた空中に飛散し、消火活動を行う消防士たちに新たな被曝をもたらしています。働き盛りである彼ら自身の、また生まれ来る未来の命の深刻な問題となっています。その被害を最小限にするために、できる限り短時間で作業を行わなければなりません。そこで事前の放射能測定やパトロールのために、森の中の悪路でも走れる足回りのいい、小回りの利く4WD車が必要なのだと消防局長のアントニュークさんは訴えています。

1999年9月のスタディ・ツアーでその実情を聞いたメンバーは、いまだ大きな宿題を抱えたままとなっています。そこで改めて皆さんに訴えて、汚染地を管理するために使う4WD車をウクライナに贈るキャンペーンを行いたいと思います。下記の要領でご協力をお願い致します。



記

1. キャンペーン期間：6月1日～8月31日
2. 目標金額：300万円
一口1,000円（何口でも可）
3. その他：中古車（ただし5年未満のものでなければウクライナに持ち込めない）。メーカー、車種は問わない。

皆様には、たびたびのお願いで恐縮なのですが、ポーナスカンパなどしていただけたらうれしいのですが…。(京)

<どうなる？ 2000年度 ボランティア貯金の交付金 配分決定迫る！>

56号に「今年度も、交付金の査定は厳しい」と報告しましたが、案の定、4月6日に早々と次のような通達が郵政省から送られてきました。

申請書を確かに受領しました。ご承知のごとく、平成12年度の交付金の原資は、前年度の約半分の総額6億円程度になっています。貴団体は、742万円の申請（前年度の交付金は617万円）となっておりますが、とても配分できる状況にはありません。現時点で試算したところ、配分できるとしても、250万円程度（内容審査の結果、配分できなくなる場合や、試算額が変更になる場合もあります。）と考えております。それでも、事業を実施するのであれば、優先順位を見直して再度報告してください…。

そこで、私達「チェル救」は、

- ① 州立小児病院用の保育器を1台削減する。（3台→2台）
- ② 市立小児病院用機器を、甲状腺プローブ1台のみとする。（心電計削除）
- ③ 専門家派遣費から、メンテナンス指導に必要な修理部品・消耗部品購入費は削除する。

以上の①～③のみ（約260万円）として、配分決定に際し、なお一層の“配慮”をお願いしました。従って、④「移住村への医薬品提供費」や、⑤「サナトリウム療養費」、⑥「コンピューター診断システム導入費」などは、対象外となってしまいました。

しかし、それから数日して、今度は「もう一つ追加するとしたら、何を望みますか？」という問い合わせがあり、さっそく「ブルシーロフ病院のための医薬品の半額分（75万円）です。」と回答しました。以上のような経緯を経て、現在に至っていますので、おそらく配分が認められるとしても、320万円前後になるのではないかと思います。

私達は、自己資金（つまり、皆様からのカンパ）の調達努力により、計画（現地の希望）は、できるかぎり実現したいと考えています。皆様のご協力をお願いします。（J）

<2000年度外務省の申請は？>

2000年度の申請締切日が5月末に迫り、私達は、交付金申請額531万円（自己資金を含む総額は、1,199万円）の事業を外務省に申請しました。（5月27日）

主な援助事業は、

- ① ナロジチ病院・事故処理作業員・障害者協会への医薬品提供事業
- ② サナトリウム保養の実施及びサナトリウム施設への医療機器支援事業
- ③ 専門家派遣事業

の3つです。外務省の方は、今までの活動実績から、申請内容が全面的に認められ、交付金も満額配分となると考えていますが、自己資金（交付金と同額以上）を自分達の手で集めること、そして、交付金がおりるまでの間（約1年間）は、自己資金にて立て替えが必要となる事など、多くの課題を抱えての出発になります。

いずれにしましても、皆様からのカンパが大きなよりどころとなっていますので、変わらぬご支援をお願いいたします。（J）

2000年度通常総会を迎えて

6月3日に、特定非営利活動法人「チェルノブイリ救援・中部」の本年度通常総会を開催します。

いよいよこれからは、名実ともに「法人チェル救」の時代になります。

法人になると、「正規の手続きを踏んで、理事会や総会を開催する」「決算書類を作成して、県や法務局に提出する」「課税対象になるので、免税手続きが必要になる」などの、これまでには必要なかったことをやらなければなりません。こちら相手側も不慣れなこともあって、手間がかかります。正直いって大変なところもあります。しかし、設立時に一度だけの作業もあり、慣ればあまり苦にならなくなるでしょう（そうなるよう祈っています）。

法人になると、社会的信用が増し、助成や補助を受けやすくなります。望ましいことではありませんが、法人であるか否かが選別材料にされる可能性もあります。まだ実現していませんが、法人に対する寄付金が免税対象になることも期待されています。

法人になったことによる仕事の増加は、メリットを得るための掛金、あるいは万一に備えての保険料と考えることができます。

ともかく、これからは、実態はなにも変わらないのですが、「特定非営利活動法人」という衣装をまとっての活動になります。今後ともよろしく願いいたします。（田中良明）

「春のバザー」と「ハーブを楽しむ会」を行ないました。

4月20日から3日間のバザーには、ポレーシェ読者の方々から、レース編みや刺し子などをお寄せいただき、ありがとうございました。麦の三つ編みスワッグやラベンダーやバラのリースやピオラのお酒なども出品し、ほんとに春らしいバザーでした。

23日のハーブの会には、21名のご参加を得て盛会でした。

25日から6日間、江南市の「花ギャラリー宴」での半襟展示会（下の写真）には、私が京都で15年間に集めた刺繍の半襟、着物、帯なども展示いたしました。準備期間が3週間もなく、額装に苦労がありましたが、和装、とくに日本刺繍のお好きな方々が遠方からもお越しくださいました。和室のギャラリーに座って、一枚一枚手に取って観ていただきました。チャリティーバザーも同時に行ない、作品をお寄せくださった陶芸家の大泉讃さんが、「もの凄い展示内容で驚いたよ。」とおっしゃってくださいました。18歳から集めた物が、救援の一助となって嬉しく思います。いつの日か、ジトーミルやキエフで、日本の美しい服飾文化を被災者の方々にも観ていただけたら素敵だなあと夢見ています。

5月20日は、ラベンダーとバラのリースの講習会を行ないました。ハーブの会やリース講習など、チャリティーとして企画していただければ講師として出向かせていただきますのでご連絡ください。使用済み切手も、引き続きご協力お願いいたします。（中島しぐれ）

チェルノブイリ救援・一宮 つぼみを守る会

Tel 0586-46-0263

〒491-0057 一宮市今伊勢町宮後字西茶屋 62-5



ふりいとおく

翻訳をして心から願うこと

「小金井に放射能測定室を作った会」 伏屋弓子

初めまして！私たちは「小金井市に放射能測定室を作った会」というグループで、昨年9月に『コネティカット州原子力発電所非常事態対策ガイド』を翻訳・発行しました。私たちの会はその名が示すように、チェルノブイリ原発事故をきっかけに、署名運動によって東京都小金井市に購入された放射能測定器で食品を測定し続けており、今年で10年になります。原発はすぐにも止めたい、消滅させてしまいたいけれど、万一今日にでも事故が起きてしまったら、まずどうしたらいいのか？ もし広範囲に食品が汚染されるような重大な原発事故であった場合にはどのような行動をとるべきか？ ずっとそのようなことが気になって模索している時「チェルノブイリ救援・中部」の河田昌東氏からガイドブックの原本をご紹介いただきました。英語のよくわかる人が1人しかいない4人組みで、様々な苦難を乗り越え3年(!)もかかって翻訳し、「本物そっくりに作ったら？」という河田氏の言葉にはげまされて、装丁も紙質もそっくりにと印刷屋さんをお願いしてやっと製本が完成した翌日、東海村・JCOの臨界事故が起きてしまいました。皮肉にもこの事故によってガイドブックは広く紹介される機会を得、全国の方々から多くの反響をいただきました。特に原発現地から原子力防災の現在の取り組みや困難、素朴な疑問などが寄せられ、いかにこのような情報が必要とされていたかを痛感しています。このガイドブックには、原発事故が発生した場合の避難方法が非常に具体的に書かれており、「安全」が大前提の日本とアメリカでは、危機意識が全く違うということがわかります。東海村臨界事故のあと、原子力防災についてにわか全国各地で取り上げられるようになり、中でも4月23日に、「原子力防災・市民ネットワーク」の主催により名古屋で行われた自主防災訓練は、市民が原子力防災を真正面から取り上げた試みとして、大変興味深いものでした。原子力防災は、★いかにして事故が起きたことを知るか★規模の大きさの判断★避難のタイミング★避難方法・方向・場所の選択★避難先での



自主防災訓練後の打ち上げにて 左から3人目伏屋さん

治療や生活、など膨大な内容の具体化が必要であり、それは誰よりもまず原発現地の住民の方々が主体となり、その自治の力で実現させていくべきものであると思います。そしてやがては、その自治の力が原発を必要としない町づくり、国づくりへと発展していくことを心から願うものです。

ガイドブックは1冊800円です事務局で扱っています。

<原子力防災・自主避難訓練を試行して…>

チェルノブイリ 14 周年に近い 4 月 23 日(日)、原発で事故が発生し放射能が漏れ出したとの想定で、原子力災害の自主避難訓練を、東海地方で初めての試みとして行いました。当日の訓練内容、事故シミュレーション、原子力防災を考えるつどい等について報告します。

【当日の訓練内容】

- ① 放射能測定器ネットワーク…事故の発生を知り、情報を流す第一番目の重要な組織。今回の訓練では中部電力・浜岡原発での事故想定なので、静岡県・浜岡町の放射能測定器所有者が異常値をキャッチ【AM7:30】。測定器ネットワーク間で情報交換し、原子力・放射能の専門家に問い合わせる【7:45】
- ② 事故シミュレーション…原子力の専門家グループが事故の影響を検討・協議。通常の 500 倍の放射能漏れにより、原発の 30 キロ圏の住民は避難と判断【8:00】。
- ③ 緊急連絡…避難情報を原子力防災・市民ネットの連絡網で各地(浜松・豊橋・名古屋・岐阜・三重等)へ連絡【8:00~8:30】。
- ④ 避難者の受け入れ体制…浜岡ほか住民避難の情報を受け、避難者の受け入れ態勢を開始。名古屋市内に避難所設置、テントを設営【8:00~11:00】。
- ⑤ スクリーニング…避難者の放射能汚染を測定するスクリーニング班の編成。測定器 500 台、ヨード剤用意【8:00~11:00】。
- ⑥ 救護所設置…医療従事者が血圧計・点滴器具・ストレッチャー・問診表等を用意【8:00~11:00】。
- ⑦ 炊き出し…食材の調達。おにぎり、豚汁・お茶を用意【8:00~11:00】。
- ⑧ 各個人は、避難マニュアルを参考に、避難用リュックを用意し、ゴムのカッパ・長靴・ゴーグル・マスクなど放射能防護スタイルで、車・電車・自転車などで避難する。避難所到着【9:00~11:00】。
- ⑨ 炊き出しにて昼食【11:30~13:00】。



★ 被災<避難者のスクリーニング風景>

【事故シミュレーション】

(中部電力・浜岡原発 3 号炉(沸騰水型・110 万キロワット)で原子炉冷却系が壊れ、緊急自動停止するが、炉心溶融し、水蒸気爆発が起きた。放射能が外部に噴出し、4 月 23 日午前 7 時 30 分、敷地境界で通常の 500 倍の放射能を検出(放射能放出は、事故開始から約 3 時間後。継続時間は 30 分)。放出放射能は、クリプトン・キセノンなどの希ガス類(100%)、無機ヨウ素(60%)、セシウム(30%)など、放射能雲となり拡散。南西の風。30 キロ圏内の住民は、いち早く風上方向へ避難の必要がある。

(瀬尾 健氏によるシミュレーション結果を元に作成)

【避難者の受け入れ体制】

初めての自主避難訓練ということから、アビリティ性を重視し、『アースデイ 2000 なごや』と同じ名古屋市栄・矢場公園およびナディアパークを会場として使った。そのため、公園内にテントを設営し、避難所とした。屋内と違って天候に左右されるため、計画段階より議論はあった。実際、晴天だったがビル風でテントの倒壊の恐れがあり、やはり問題となった。



スクリーニングでは、担当が測定器で実際に一人ひとりの頭、喉、肩、足を測り、皆、初めての体験で妙な面持ち。受け付けでもらった用紙に測定値を書き込んでもらう。足の値が高いといわれ、悲鳴を上げる人もいた。避難者は放射能から身を守るカップやマスクをきちんと着けている人もいたが、天気がよかったせいか軽装の人が多かった。避難スタイルで汚染値が違ってくるのがわかっていてもなかなか実行できないものだ。

救護所では、血圧を測ってもらい健康状態をチェック。問診を受けるだけでなぜか体が楽になった気分で、実際の災害のパニック時には重要なことだ。ストレッチャーに寝てみる人もいた。

炊き出しはテント内、および周辺にビニールシートを敷いて座卓を置き、裏から見れば花見の宴会の様相であったかもしれない。おにぎり、豚汁ともに吟味した材料で腕によりをかけて100食(一食500円)を用意していたが、参加者が予想より少なく残ってしまい残念だった。しかしおにぎりは近くのテント村へ、豚汁は打ち上げの会でおいしく消化された。

【原子力防災を考えるつどい】

午後2時から屋内の会場に移り、事故のシミュレーションの解説や各地からの参加者とメッセージ交換。静岡県浜岡町「原発を考える会」の伊藤さんや放射能測定器ネットワークのメンバー、廃棄物などの問題の岐阜県東濃・井上さん、芦浜原発を止めた三重県から柴原さん、コネチガットの避難マニュアルを翻訳したグループの、東京の伏屋さん、志賀原発の避難訓練を3回行っている石川県の多名加さんなど各地から多彩な参加者を得て、充実したつどいとなった。最後は、フォークグループ「これがおわりのホレホレバンド」の歌で、会場の張り詰めていた緊張感が和んで、この日の原子力防災・自主避難訓練は終了した。

防災訓練は、いかに現実的に、速やかに行えるかが問題。浜岡原発の場合、東海地震が心配されるが、原発震災はあまりに課題が大きすぎ、取り組めなかった。また東海地方は、福井県原発事故の場合、風向きによって避難対象になる。原発がある以上事故は起きるはずで、原子力災害はいつ、誰の身に降りかかるかわからない。国・自治体の防災体制の整備を求めなければならないが、同時に私たちにできる避難の方法、ネットワークづくりなど、原子力防災・市民ネットワークでも今回のもろもろの反省の元に考えていきたい。(京)

(写真集「その星の名はにがよもぎ」より)

アンナ・ホテムチュク

息子よ！ おまえだけは、あの世に宛てておまえに手紙を書いている私のことを、分かってくれ許してくれるでしょう。他には、どのようなすべも無いのです。おまえのことを悲しんでもう 10 年になります。おまえにもう会えないということが、どうしてもあきらめきれません。この手紙で、おまえに言葉をかけましょう。

あれからわが家ではたくさんの新しい事が起こりました。事故の後、人々はよそに移住させられました。おまえの妻ナターシャと子どもたちは、キエフにアパートをもらいました。今、プリピアチから来た人々が沢山住んでいる地区です。

おまえの娘ラリーサは結婚しました。夫は良い人です。ベラルーシ出身の人です。3 年前、おまえはお爺ちゃんになったのですよ。カテリンカという孫娘がいます。その子はおまえにちょっと似ています。だっておまえのラリーサは、おまえと二つの水滴のように似ているのですから。おまえの息子オレシカは学校を終えました。ナターシャも、彼が自立し生活できるように助けています。自分の事は考えず自分の人生はそっちのけです。人々は居たにしてもおまえの代わりににはなりません。

彼女はカテリンカによって慰められています。それが彼女にとっての慰めのすべてです。というも、彼女はよく病気になります。原子力発電所での仕事や、事故のせいだと思われるのですが……。

人々はいつでも親切です。村に住んでいるおまえと同年代の人々は、私のことを心配してくれています。毎年 4 月 26 日に、彼らは私とおまえの妹のマリヤを、プリピアチに連れていってくれます。事故後の処理作業で亡くなったおまえの友人たちは皆、英雄のように尊敬されています。追悼会も開かれます。毎年、おまえが亡くなった場所を見るために、この日

を待つことだけが私の生き甲斐です。

息子よ！ 母親にとって、息子の墓さえ持っていないという悲しみはとても大きいのです。4 号炉全体——それがおまえのお墓です。墓地には想像上のおまえの埋葬地が用意されはしましたが。私が植えた白樺は、この間に高くすなりと成長しました。ヴァレリーカ！ おまえは私たちの地区でも尊敬されています。立入禁止ゾーンから移住させられた人々の村では、通りにおまえの名誉にちなんで名前がつけられています。

にがよもぎの災害は、その黒い葉を広げて、全世界にウクライナの苦味をまき散らしました。

我が家の姓、ホテムチュクも、1986 年からはアメリカでさえ知られています。おまえのことも、恐ろしい災害を回避させた若者の一人として知られています。

息子よ！ もし再会したら、おまえは私に何が必要か、手伝う事はないか、ときっと聞いてくれるでしょう。心配はいりません。私の所には何でもあります。お金も食べ物も、履き物も着物も。親切な人々は、私を見捨てたりしません。私にない物は、死が取り上げてしまったおまえ達子どもです。死から守ってやれなかった私をどうか許してください。あのウクライナ民謡のサクランボの木のように、見事に咲いたが大きならなかった……。おまえが子どもの頃歌ってやったこの歌は、みんなの愛唱歌です。私を許しておくれ、わが子よ。

(ウクライナ語訳 河田いこひ)



**東海村JCO事故に
2人目の犠牲者！**
…4月27日 篠原さん逝く…

第1の犠牲者大内さんに続き、とうとう篠原理人さん（41才）までが、その若き命を奪われた。

大内さんの逝去（12/21）後、科技庁のインターネットホームページには、残る2人の病状も全く掲載されなくなってしまう。○の安否が気遣われていたが、訃報は突然にやってきた。

「半数致死線量（8シーベルト）を超える10～17シーベルトの被曝」という事実が、どんな意味を持っていたのかが、2人の死で明らかになった。

自主防災訓練の日（4/23）、会場に駆けつけた参加者の一人が訴えた。

「私達の呼びかけに対して、『どうせ死ぬ時は、一緒にしようが。なぜ、避難をしなくちゃならんのかね』と、他人事のように言う人が多くて、情けない思いをする事がある。」…と。

チェルノブイリ事故の後、現地では、今も尚、放射能被曝が原因と見られるさまざまな病気で、幼い命が失われていく。

その一つ一つに、言葉では言い尽くせない、残酷な悲しい別れがある。

決して、死ぬ時は“一瞬”ではない。そして、全員が“一緒”ではない。篠原さんの壮絶な闘病の様子を示した、右上の写真をしっかりと見て欲しい。

「週刊現代」には、顔面の写真も載せられていたが、「ポレーシェ」紙面には掲載する勇気がなかった。詳細については、「週刊現代（5/27号）」を参照していただきたい。（J）

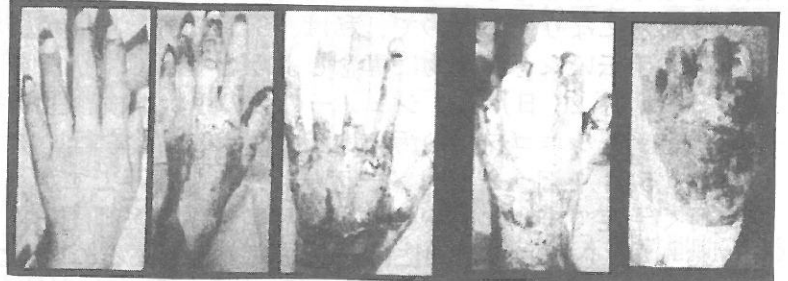
【治療の経緯を克明に写した写真】

上肢（両前腕・手）

9/28 10/10 11/10 12/20 1/4（植皮術）



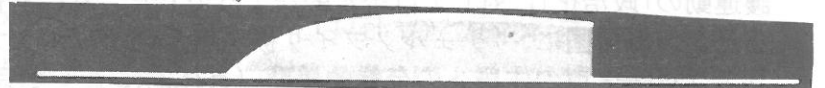
発赤・腫脹 → 疼痛 → 発赤・腫脹 → 水疱形成・びらん → 潰瘍形成



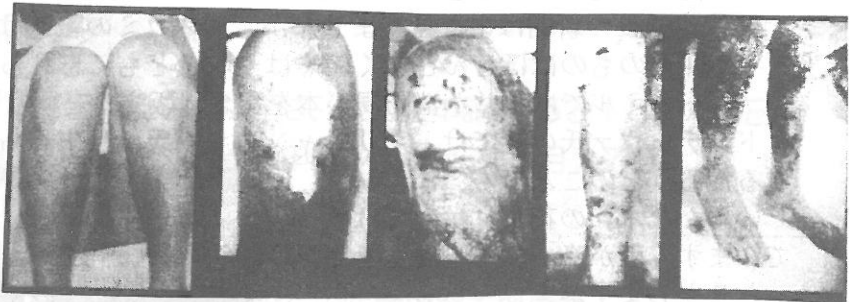
＜濃縮ウランの入ったバケツを持っていた両手が、全身の中でも、最も多く放射線を浴びた重傷部位だったという＞

下 腿

9/28 10/10 11/10 12/20 1/4（植皮術）



疼痛 → 発赤・腫脹 → 水疱形成・びらん → 潰瘍形成



＜地元の少年サッカーチームのコーチをつとめ、学生時代はサッカーで鍛えていたという両足も、放射線に曝された＞

竹内さんのウクライナ便り

(チェルノブイリ救援・中部 キエフ在住 竹内高明)

(2000.4.26)

ご無沙汰しております大変申し訳ありません。一週 10 コマの授業をやってますと、準備だけで時間がとぶように過ぎてしまいます。私の滞在登録は 9 月 11 日まで延長されました。外国人登録の役所に、ジトミルのジャーナリストに掛け合ってもらった結果、「2004 年 9 月までは中断なく滞在できる」ということになり(しかし、半年おきに書類提出はしなければならないそうです)、また「大学を通じなくても登録延長ができるらしい」ということになりましたので、私は、6 月の試験期間が終わったら、大学を辞めて救援活動(のお手伝い)と書き物に専念しようと考えております。

今日(4月26日)に、ジュノーの会の甲状腺検診団がキエフに来、5月4日までキエフ市内とチェルニゴフ州の汚染地域で例年の検診を行います。今年は4月30日が復活祭の祝日、5月1日~2日はメーデーの祝日で休みですが、私は休みを返上してチェルニゴフへ行く予定です。5月中旬には血液病関係の医師団が来て、これも手伝ってくれと言われており、さらに6月下旬には社会学調査団も来るので、これも通訳をと言われています。

先々週に、コヴァレフスカヤ氏宅に行き、甲状腺ホルモン剤を渡してきました。よろしくお伝え下さいとのことでした。4月15日だか16日だかに、ミンスクでチェルノブイリ14周年の国際会議があり、それに招かれていると言ってましたが、その後連絡をとってないので結果についてはまだ聞いてません。氏と雑談していた時に、「全ウクライナチェルノブイリ国民党」なる政党の活動家(40代男性、プリヂャチからの疎開者)が来て、「ミンスクでマスコミに渡してほしい」といろいろ資料を置いていきました。あとでコヴァレフスカヤ氏が言ったことによれば、氏はこの「党」を好きではない、というか被災者保護運動の「政治化」に対しては否定的なようでした。私にも資料を1部くれたので読んでみると、西側諸国に、「チェルノブイリ被災者及びチェルノブイリ原発の閉鎖に伴い職を失うスラヴチチ市の住民への金銭的援助(具体的にドルで示してある)」をよびかける内容のもので、日本大使館にも送られているようでしたが、こんなアピールに反応があるかどうかは極めて疑わしいと思われます。

4月26日の新聞はまだ見てませんが、マスコミの報道はこれまでのところ、チェルノブイリ関連のものはほとんどなく、やはり時とともに忘れられる傾向にあるのかと思います。ジトミルではたしか消防局が本を記念出版するという話でした…。

ドンチェヴァ氏の話では、キリチャンスキー氏は月末くらいまではサナトリウムで療養するだろうとのことでした。

いろんな木々の花が、咲いては散っています。雨が降ってちょっと肌寒かったりもしますが。

グリブナ・レートはこのごろは安定しており、1ドル=5.4グリブナ前後です。でもこれは、アメリカの株価急落とかと関係してるのでしょうか？日本でのチェルノブイリ関連報道はいかがでしょうか？それではまた。



<この時期ウクライナではライラックが美しく咲き誇る>

チェルノブイリ救援・中部の会計報告(99年4月-2000年3月)

収入の部			支出の部			
項目	金額(円)		項目	金額(円)		
前期繰越	4,366,890		救援物資関連	小計 15,316,179		
救援寄付金 (内訳)	小計	13,635,604	(内訳)	医療機器(麻酔器など)	2,970,197	
	個人(886件)	12,185,965		医薬品	7,489,368	
	団体(28件)	1,449,639		粉ミルク	4,500,000	
国際ボランティア貯金交付金	6,171,000			輸送費(車椅子など)	356,614	
外務省ODA補助金	5,600,000		特別事業費	小計 3,632,666		
運営費関連寄付金 (内訳)	小計	4,831,841	(内訳)	ナロジチ病院暖房設備費	1,271,328	
	個人(196件)	854,202		事故処理作業子ども保養費	385,540	
	団体(13件)	3,977,639		奨学金関連	413,014	
物品売上げ等	247,966			専門家派遣	643,562	
旅費立替え分戻し	70,000			医学生研修助成金	80,362	
預金利子	17,332			移住基金業務委託費など	726,460	
				駐在員費	112,400	
				運営費関連	小計 5,338,595	
				(内訳)	郵送通信費(ポレ発送含)	1,555,720
					電話代	403,323
			印刷費(ポレ印刷代含)		535,694	
			国内出張旅費		171,640	
			会場費		12,580	
			会議費		5,682	
			消耗品費		125,864	
			人件費		1,622,570	
			家賃光熱費		566,369	
			振込手数料		124,817	
			広告宣伝費		47,100	
			物品購入費		102,906	
			組織加盟費		43,500	
			修繕費	3,000		
			雑費	17,830		
			為替差損	1,760		
		旅費立替え	140,150			
		特定非営利活動法人チェルノブイリ救援・中部へ寄附	10,511,283			
		総支出	34,940,633			
当年度収入合計	30,573,743		次期繰越し	0		
収入総額	34,940,633		支出総額	34,940,633		

※「次期繰越金」は特定非営利活動法人チェルノブイリ救援・中部に全額「寄附」という形で引き継ぎました。

会計監査証明書

自 1999年4月 1日
至 2000年3月31日

上記期間の収支計算書ならびに諸帳簿の各内容を監査した結果、異常なく正当に処理されていることを証明いたします。

2000年4月15日
チェルノブイリ救援・中部
代表 田中 良明 様

南 和也 (南)

事務局便り

チェルノブイリが10年を迎えた。こんなにも長い年月、この活動に関わろうとは当初思ってもみなかった。事務所の私のデスクの隣でパソコンに向かう事務局長をふと見れば、月日の流れは確実に感じられる。彼もまた私を垣間見て「お互い様」と思っているだろう。この10年、活動することによって起こる様々な困難さから逃れたいと思ったことは幾たびかあった。しかし、それでも続けてきたのは、度し難い「チェルノブイリ」の災禍から逃げることができず、否が応でもそれを生きなければならないウクライナの人々と直接関わってしまったからだろうか。疲れた、と思う時、ふと彼らのこもごもの思いを孕んだ顔が浮かび、その顔に促されるようにしてまた事務所にスタンバイしている。ともかく10年。斯くして10年。…今、事務所では「物忘れ競争」が展開している。否そうではない。「物忘れ自慢」が横行している。「スーパーマン」か「必殺仕事人」か、何でも請負い何でもこなしてしまう事務局長だが、この頃物忘れが激しいと嘆いている。「そうそう、私も」と事務局員2人が、かぶりを振る「べこの子」と化す。「物忘れ対策メモ」を作っても、それをどこに書いたか忘れるなどと力なく苦笑しながら「物忘れ自慢」で盛り上がる。…どこかに事務局員の救世主（といっても「人」でよいのです。「神」でなくても、「天皇」でなくても）いませんか。
(山盛)



月刊 ボランティアのみみより情報誌 『ボラみみ』の紹介

発行元 ボラみみより情報局
〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-20-11
NPO プラザなごや2F FAX 専用 052-586-1174
E-mail: boramimi@geocities.co.jp
HP: <http://www.boramimi.home-page.org>

この情報誌は、ボランティア活動を支援して下さるお店(約130店舗/発行部数10,000部)に配布されています。あなたも協賛金協力者(500円/口)や定期購読者(3,000円/年)になって、『ボラみみ』を応援しませんか?

「救援・中部」の情報も随時掲載されていますヨ。(6月号には「フリーマーケットの達人募集!」が載る予定です。)

編集後記

☆9ページの続き…。「移植した皮膚は拒絶反応もなく生着し、経過は良好」と伝えられていたが、実は「拒絶反応がなかったのは、患者の免疫機能がその皮膚を拒絶できないほど低下していたため」との事。放射能の前に、人類(生命)は実に無力な存在である。
(J)

☆実は歯科に通っている。水面下で密かに悪化(ムタダリ)していたらしく、カレーを食べていたら突然破壊(爆発)した。優しい歯科医曰く、「まだ六カ所もありますよ。」…泣ける。
(美)

☆陽射しを浴びると顔がヒリヒリするようになった。オゾン層が減ってきているなど皮膚で実感。仕方なくUVケアでささやかな抵抗を試みるが、効果のほどは…?
(かよ)

☆浜岡原発を中心に動植物の観察を続けている人がいる。よく見かける幸せのシンボルとは違う変形の四つ葉のクローバーの写真。果して四つ葉のクローバーは幸せのシンボル??
(京)